

# 都市再生整備計画(第3回変更)

いずみまち ち く  
泉町地区

みやざき くしまし  
宮崎県 串間市

令和6年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	宮崎県	市町村名	串間市	地区名	泉町地区	面積	2.44 ha
計画期間	令和3年度～令和5年度	交付期間	令和3年度～令和5年度				

**目標**  
 大目標：住む人と訪れる人がふれあうにぎわいとるおいのあるまち ～「道の駅くしま」を核としたまちなかの再生～  
 目標1 道の駅を拠点として、旧吉松家住宅などの地域内に点在する地域資源を活かし、各地域資源の市内外での認知度を高めるとともに、訪れる人の興味・きっかけがあふれるまちづくりを進める。  
 目標2 住む人や訪れる人にとって、うるおいと憩いのあるまちづくりを進めるとともに、大規模災害時などへ対応できる防災機能を整えた安心感のあるまちづくりを推進する。  
 目標3 市民と行政協働の取り組みにより、『串間』の中心市街地にふさわしいにぎわいを創出し、来訪者の本市を代表する観光地への回遊性を高める情報発信や市内周辺地域とのネットワーク拠点となるまちづくりを進める。

**目標設定の根拠**  
**まちづくりの経緯及び現況**  
 ・本計画区域は、本市の中心商店街(仲町通り)、JR串間駅、串間市役所、国指定重要文化財「旧吉松家住宅」などがある。本市の中心地である。この中で「旧吉松家住宅」は、明治から昭和時代にかけての串間の政治・経済に大きく貢献した吉松氏によって大正時代に建築された近代和風建築物である。本市においては、この建築物が串間の歴史上等の面で重要な地域資源であることを認識し、空き家となっていた本建築物を平成15年に購入し平成19年に資料館として一般公開をスタートした。現在では、ひな祭りや七夕祭りなどのイベントが本建築物内で実施される等、地域活性化拠点の1つとなっている。  
 ・また平成18年度～平成20年度においては、都市再生整備計画事業(串間駅周辺地区)を導入し、上記吉松家の整備やJR串間駅を利用した特産品販売所(駅の駅)を開所する等、まちの拠点機能の創出・強化を図っている。この事業により拠点の強化は図れたものの、本計画区域に点在する地域資源の認知度は低くまちづくりに活かしていないことや、本計画区域の重要な役割である中心市街地としての機能についても歩行者数が20年前(S50年代～H8年度)の半数に落ち込んでいる状況にあり、来訪者や市民等が集える機能が不足している状況にあった。  
 ・一方、本計画区域に対する市民の関わりについては、地元商店会と行政が協働で地域活性化イベントを開催したり、市民団体によって地域に点在する旧吉松家住宅以外の地域資源も活かしたガイドツアーが行われ始めてきている。また平成25年度からは、地元のまちづくり組織として「くしままちづくり協議会」が立ち上がり、まちづくりの機運が高まっており、市民独自の活性化策に取り組んでいる。  
 ・平成26年度に広域交通ネットワークの結節点である串間駅交差点区域について、その機能を最大限に活用し、中心市街地の形成、通過型観光客を市街地や市内観光地へ回遊させる拠点づくりについて、市民協働で検討を進め、当計画の機能強化を図った「まちなかの道の駅」を集客戦略の核とした串間市中心市街地まちづくり基本計画を策定した。  
 この計画を推進することにより、中心市街地へ都市機能を集積するとともに市内周辺地域とのネットワーク構築を図ることとしている。  
 ・平成26年～令和2年に都市再生整備計画事業(旧吉松家周辺地区)で吉松家周辺の公園整備、道の駅くしま情報施設棟、防災広場等の整備を行ったことで、まちの拠点機能を造ることができたが、市民が集える機能については未だ不足している状況である。よって市民交流施設及びイベント広場を整備し、にぎわい空間を創出し、さらなる拠点機能の強化を図るほか、隣接地の利活用についても調査等を行い、さらなる施設の充実を検討していく。

**課題**  
 ・「旧吉松家住宅」が本計画区域の中心的な資源であることは、地元のまちづくり組織を含めて認識しているものの、この資源を活かしたまちづくりへの線的・面的な波及がハード・ソフト両面を含めて十分でない。また本計画区域は市の中心地として様々な地域資源を有する「まちの顔」となる地区であるが、これらの資源について市民の認知度が高くない。そのため、これらの認知度(郷土愛)を高めながら市民に愛される集客性の高い、中心市街地を形成していく必要がある。  
 ・現在、地元商店会等を中心に本計画区域でのイベントが開催されているものの、イベント・オープンスペースが乏しくイベントの内容に制約がある状況にある。イベントによる集客効果を高めたいために、日常は憩いの場となり、天候に左右されずイベントスペースとして利用できる空間を創出する必要がある。  
 ・地域資源を活かしたまち歩きなどの取り組みや新規イベントの企画・実施及び既存イベントの拡大・充実を住民と行政協働で進め、持続的なまちづくり推進体制の構築を図るとともに、情報発信機能を高め、中心市街地のにぎわいを創出し、市内周辺地域へ賑わいを波及させる必要がある。

**将来ビジョン(中長期)**  
 本計画区域は、第五次串間市長期総合計画(H23.3)において『にぎわいの市街地・商業拠点ゾーン』として、以下のように位置付けている。  
**【にぎわいの市街地・拠点ゾーン】**  
 ・本ゾーンは、具体的に「公共施設・事業所・商業施設機能の充実、都市計画道路や幹線道路、公園施設などの社会資本整備や都市基盤整備等を推進し、住む人と訪れる人がふれあうにぎわいのある良好な市街地・事業所・商業環境の創出、誘導に努めるゾーンである」としている。  
 ・また本区域を含む『商業拠点の整備』について、「市民や事業者との協働のもとに環境・景観整備対策等の検討を進め、都市基盤整備と連動した人々が集うにぎわいの場づくりを目指す」とことや「民間活力を活かしたイベントの開催等を行いながら、魅力ある商店街づくりを目指す」としている。  
 また総合計画では、市全域で『市民主体のまちづくりの推進』も目標に掲げている。  
**【市民主体のまちづくりの推進】**  
 ・一方、自立した「まち」を創造・経営していくために、市民がまちづくりに自主的・積極的に参加するための仕組みづくりや体制づくりを進め、市民と行政がそれぞれの役割と責任を持って協働する市民参画のまちづくりを目指すとしている。

**都市再生整備計画事業の計画**  
 防災拠点整備方針  
 想定される災害発生時において、避難地、物資集荷場及び情報基地として機能する拠点施設として道の駅くしまの整備を検討する。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
「地域のまちづくり」の満足度の向上	%	2年に1回実施する地域住民に対する「まちの各環境に関する満足度」アンケート(基準年度は直近調査結果)	地区内での地域資源を活用した取り組みや情報発信により、地域資源に対する住民のまちづくりに対する満足度の向上を目指す。(指標の数値は商業振興の状況と観光振興との満足度をそれぞれ集計し、その平均値を使用する。)	6.9	H30	18	R5
地域活性化拠点の来場者数の増加	人/年	地域活性化拠点「道の駅くしま」を中心に「旧吉松家住宅」などの市内周遊を含めた来訪者数の増加	「道の駅くしま」、「旧吉松家住宅」を活用した事業及び地域の特徴を活かした「道の駅」戦略を展開していくことにより、来場者数の増加(市街地への来訪者数)を図り、更なるにぎわいを創出する。	22,861	R1	294,000	R5
イベント回数の増加	回/年	中心市街地で実施するイベント回数の増加	まちなかでのイベントスペースを確保するとともに、市民が主体となった利活用を図る。	11	R1	24	R5

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1: うるおいと憩いの空間の整備</p> <p>住む人と訪れる人にうるおいのあるまちづくりを進めるために、道の駅エリア内に憩いとにぎわいの空間(市民交流施設・イベント広場)を整備する。また、市民交流施設整備事業(「道の駅」整備)に市民の日常生活に必要な公的機能を含め、住民へのサービス機能の集積を図り、利用者視点に立ったワンストップ化を目的としたコンパクトシティ形成を目指す。さらに市内周辺地域とのネットワーク拠点機能を充実させ、「コンパクトシティ+ネットワーク」を展開する。</p> <p>防災機能整備事業により、大規模災害時の一時避難機能に加え、災害対策本部となる市役所と隣接している地理的利点を活かした支援施設としての活用を図り、災害対策の一役を担う。</p>	<p>基幹事業 (地域生活基盤施設) イベント広場建設 (高次都市施設) 市民交流施設建設(地域交流センター) (高質空間形成施設) モニュメント</p> <p>提案事業 (事業活用調査) 事業効果分析調査 (地域創造支援) 立地適正化計画策定</p>
<p>・整備方針2: 地域資源を活かしたまちづくりの展開</p> <p>道の駅くしまを中心に近隣地区に点在する地域資源を活かした事業を展開する。「道の駅くしま」の整備により、これまで中心市街地に立ち寄る機会の少なかった来訪者を呼び込み、常に、にぎわいのある雰囲気を醸成することを目指す。さらにイベント広場を整備することで、市民と行政協働でイベント等を開催し、本地区における出店のきっかけづくりを行う。</p> <p>市民交流施設整備事業(「道の駅」整備)にあたっては、日常的に市民が集う機能を確保することで、平日等においても、集客力を高め、既存店舗の仲町通り(メインストリート)や泉町商店街への出店を誘発する環境づくりを展開するとともに、沿線住民、隣接商店等の意識向上と協力的体制づくりを進め、中心市街地の活性化を目指す。</p>	<p>基幹事業 (地域生活基盤施設) イベント広場建設 (高次都市施設) 市民交流施設建設(地域交流センター) (高質空間形成施設) モニュメント</p> <p>提案事業 (事業活用調査) 事業効果分析調査 (地域創造支援) 立地適正化計画策定</p>
<p>その他</p>	
<p>「道の駅」整備(休憩・休息施設、情報発信施設、地域振興施設)においては、前面道路の管理者である国土交通省と事業連携し、「道の駅」一体型整備として、事業展開を図る。</p> <p>また、「道の駅」をはじめとする地域振興施設等の運営については、市民団体や経済団体など民間を中心とした組織による運営を目指し、民間活力を最大限に活かした施設運用、魅力あるソフト戦略を図るとともに、中心市街地を拠点とする「コンパクトシティ+ネットワーク」の形成と市内周辺の各地域のコンパクトビレッジ推進と連動させた、本市地方創生の重要な戦略の一つとしての事業を展開する。</p>	



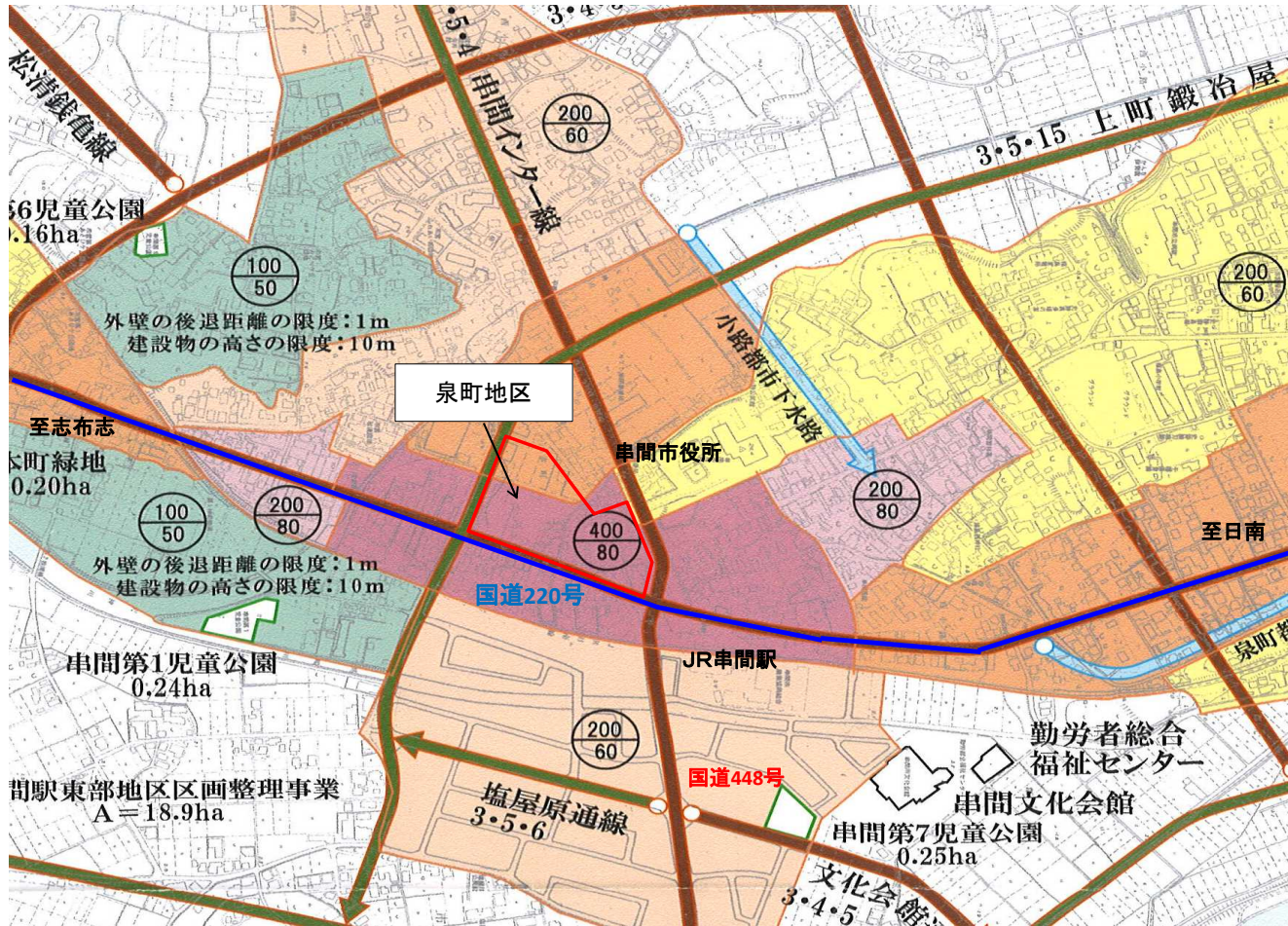
泉町地区(宮崎県串間市)

面積

2.44 ha

区域

串間市大字西方の一部



0

500

1000